

[古代エジプトの文化]

〈宗教〉：多神教 ※アメンホテプ 4 世の改革時は一神教。

ラー…太陽神。ファラオはラーの子とされる。

アモン(アメン)…テーベの守護神。

→二神が結合しアモン＝ラーの信仰が生まれる。：中王国以降で盛ん。

⇨アトン…新王国時代にアメンホテプ 4 世が創出した唯一神。

オシリス…死を司る神。人間の死後に審判を行う。

→人々は死後の審判に備えて『死者の書』を著す。

『死者の書』…死者の生前の行いや呪文を示したもの。

パピルスという草から、一種の紙を作ってそれに記した。

ミイラ…靈魂の不滅を信じたエジプト人は、死体を保存した。

〈建築〉：古王国時代の巨大建造物

ピラミッド…ミイラを保存するための巨大墳墓。クフ王の物が最大。

スフィンクス…ピラミッドを守る守護神。

〈文字〉：ヒエログリフを始めとして簡略化が進んだ。

ヒエログリフ(神聖文字)…最初のエジプト文字で、最も正式書体。

ヒエラティック(神官文字)…ヒエログリフが簡略化された形。

デモティック(民用文字)…最も簡略化された書体。紀元前 4 世紀頃に成立。

〈ヒエログリフの解読〉

1799 年、ナポレオンのエジプト遠征の際、**ロゼッタ＝ストーン**を発見。

→そこには上から、神聖文字・民用文字・ギリシア文字で同じ内容が刻まれていた。

→19 世紀フランスのエジプト学者**シャンポリオン**が解読に成功。

〈エジプト文明の発明〉

太陽暦…太陽の一年間での周期を基準にした暦。

→後に古代ローマで採用されて**ユリウス暦**となる。

→16 世紀になると、西欧では現在の暦である**グレゴリオ暦**に移行する。

測地術…ナイル川の氾濫後の土地の復元のために発達。幾何学の原点になった。